

薬剤を使わない安全なウナギづくり研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成22～24年度)

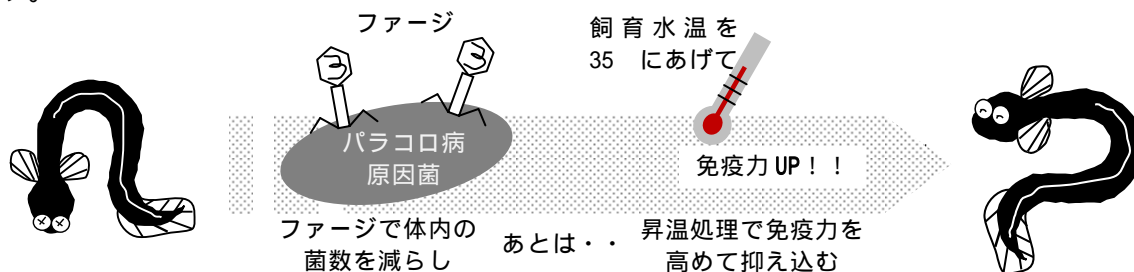
担当：浜名湖分場 飯田益生

【研究の背景とねらい】

- ・ウナギ養殖において、パラコロ病と板状（俗称）は大きな被害をもたらしており、その対策が急務となっています。
- ・消費者の「食の安全」への関心の高まりを受け、養殖現場では薬剤の使用を抑える傾向にあり、薬剤を使用しないでこれらの疾病を治療する技術の開発が求められています。
- ・パラコロ病については、飼育水の昇温処理によって被害を軽減できますが、効果は十分でなく、これを補完する治療技術が必要です。当所のこれまでの研究で、パラコロ病の原因菌を溶菌するバクテリオファージ(以下、ファージ)の分離・保存に成功しており、これを活用した治療技術の開発を目指します。
- ・板状については、これまで治療法が全く明らかになっていません。そこで、治療効果が期待できる飼育水の昇温処理や餌止めによる対策について検討していきます。

【期待される効果】

- ・パラコロ病については、ファージによる治療法を確立することで、飼育水の昇温処理による治療との併用により、高い治療効果を得ることが期待できます。
- ・具体的な治療法を確立することで、板状による被害を低減できます。
- ・薬剤を使用しない治療対策が確立され、疾病による被害が低減することで、養殖経営の安定化に繋がるとともに、消費者の求めるより安全な養殖ウナギの提供が可能となります。



《薬剤を使わないパラコロ病の治療イメージ》

【年次計画】

研究項目	検討内容	H22	H23	H24
1 バクテリオファージによるパラコロ病の治療法開発	治療に有効なファージ投与方法(濃度・期間) ファージ浸漬による予防・治療法 ファージの高密度培養・保存法 ファージ治療と昇温処理の併用の効果			
2 板状の治療対策	昇温処理・餌止めによる治療効果 昇温処理による免疫付与過程の把握 養殖場での治療対策の実証と効果評価			

(作成 平成22年4月)